

火の国阿蘇の ®みのブランド

Zen Asocity

どこか優雅に見えてくるのだ。 課長という立場でのJA勤務を続けながら、 ところが、なかなか作り手が現れない。 さっそく本格的な取り組みを推進する。 朝四時起きで栽培の仕事を始めた。 この植物の軽さ。高齢の生産者にはありがたい。 グリーンアスパラガスだった。なにより着目したのは 「となれば、自分でやるしかないかと……」 JAに勤務していた室治夫さんはメロンの下火を憂え、 およそ二十年前、 「何か代わる品目を、といろいろ調べました」そこで浮上したのが、

世話をしているひとの立ち居振る舞いも いまや「阿蘇にグリーンアスパラガスあり」は着実に根づいた。 江戸時代にはじめて日本にもたらされたときには その姿が人びとのこころに届いた。率先垂範の説得力である。 観賞用植物だったというだけあって、アスパラガスの姿は繊細で美しい。

グリーンアスパラガス農家 室治夫

あるがまま、という貴さ。 人と自然が共作する阿蘇。